

2019年5月6日(月)

老球の細道480号

会津バスケット協会松井遵一郎会長退任

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年度会津バスケットボール協会会長松井遵一郎先生(以後「先生」)が病院の仕事に専念するために会長職を退任した。2003年坂下厚生病院に赴任した翌年から会長を引き受けていただき、実に15年間会津協会のみならず県協会においても絶大なる力を発揮していただいた。病院院長というお忙しい立場にありながらも、カテゴリーを問わずバスケットボール会場、夜の懇親会場に寸暇を惜しまず顔を出していただき、私たちに温かく激励をしていただいたことに感謝、感謝である。

大会の度の開会式、閉会式における先生の挨拶は、形式的なありきたりの内容ではなく、松井先生自身の人生哲学、バスケットボール哲学、バスケットボールの身近な歴史エピソードが満載で、私はいつも楽しみに拝聴していた。また、ゲームと一緒に観戦している時に時折戦術などのコメントを聞くことがあり、その着眼点の深さにいつも感心させられ、勉強させてもらった。また、私も自称「バスケットボールおたく」と言われているが、先生はそれ以上におたくであった。昔の日本バスケットボール界のレジェンド、名勝負などをことごとく記憶されており、バスケットボールの夜の懇親会では、先生と「日本バスケットボール昔話」をするのが楽しみの一つであった。

先生のコーチングへの情熱も並々ならぬものがあつた。会津協会主催で毎年実施されている「バスケットボールアスリート教室」においては毎年講師として指導していただいた。若いコーチ陣以上に大きな声を出して子どもたちにハッパをかける姿はすごかつた。日曜日なのに家でゆっくり休むことなく、先生は緊急の用事がないかぎり必ず参加してくれた。会長自らコートに立って指導してくれたので私たちも元気百倍アンパンマンだつた。

先生の勉強熱心さにも驚嘆させられた。私が退職してから3年間、坂下ミニバスコーチの二瓶氏と一緒に若手コーチの育成を目的に「コーチングクリニック」を年間6回3年間実施した。私自身の力不足と知名度不足で肝心の若手コーチはあまり集まってくれなかつたが、先生は3年間ほぼ皆勤で参加してくれた。平日夜7時から開講していたのだが、病院の仕事が終わって坂下から駆けつけてのことで、今でも頭が下がる思いである。

個人的にもたくさんお世話になり今でもお世話になっている。坂下高校時代以来、私のチームの選手が怪我をするとほとんど先生にお世話になった。先生への電話一つで予約はいつもOK。診察、治療が終了すれば必ず結果を電話で知らせてくれた。その誠意ある姿勢に何度も心を打たれた。しまいには生徒ばかりでなく私までお世話になり主治医になっていただいている。「健康不安症候群」の私にとって、何か異状が感じられた時の先生からの魔法の言葉「だいじょうぶだ！」で、今まで何度生き返つたことか。

大学時代に初めて先生と出会ってから45年が過ぎた(当時は福島医大と福島大のバスケット部は定期戦を組んでいた)。先生は大学時代「秘密兵器」と称され、秘密で終わってしまったそうであるが、今も昔も変わらない情熱は私の目標である。

日本バスケットボール革命の今、中央だけでなく地方組織のガバナンスが問われている。そんな折、先生のような鳥の眼(大局を見る)、魚の眼(流れを読む)、虫の眼(細部に気を配る)を持つリーダーが必要である。松井会長の退任は残念でならない。